

よしかわ通信



りん どう
凍道

新緑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、ひとかたならぬご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたびの東日本大震災で、被災されました皆様方に心よりお見舞い申し上げます。茨城県はあまり、被災地とはされておりませんが、北茨城市、高萩市においては、地震と津波により、かなりの被害がありました。

私は一年前チリ地震による津波に対する対応として、三月議会で災害時の避難対策について質問しました。その時に指摘した、避難指示の伝達方法や誘導について「今後の課題として対策に生かしたい」と総務部長が答弁していましたが、はたして「生かされた」のでしょうか？その後作られた「防災マップ」は、地震が起きたときに役立ったでしょうか？今はまず、復興が第一ですが、同時にその対策の見直しも早急に進めていくべきだと思います。日本国民として、茨城県民として、高萩市民として、復興をめざして力を合わせて頑張りましょう！！



発 行

高萩市議会議員

よしかわどうりゅう
吉川道隆

高萩市安良川686
TEL 0293-24-0833
FAX 0293-22-3340
ホームページ <http://www.douryu.net>
E-mail info@douryu.net

東日本大震災

活動報告

今まで、新潟中越地震のとき、日本海に重油が流れたとき、私は、茨城県曹洞宗青年会の一員として、ボランティアに参加してきました。ところが、今回の地震では、高萩市も被災地となり、私のところも例にもれずかなりの被害があり、



しばらくの間、余裕がありませんでした。お彼岸が終わり、やっと落ち着いたところで、3月28日から4月1日まで曹洞宗青年会のメンバーとともに総合福祉センターで炊き出しを行いました。朝8時半から、午後8時まで、手に入る食材で工夫しながら作り、おにぎりばかりだった避難所の食事に、温かいカレーライスやみそ汁、野菜炒めなどを作り、10時と3時にはお茶とお菓子を用意しました。避難所の方々に喜んで頂き、私たちもやりがいを感じることができました。ご協力いただいた皆様に感謝致します。

その後、4月8日にはいわき市小名浜に炊き出しに行きました。高萩市を過ぎ、だんだん北に向かうにつれて、海沿いの町には被害の跡が目立ちました。北茨城市、いわき市まで行きましたが、高萩市とは違う風景でした。さらに北に行くともっとひどくなるのだろうと思います。一日も早く復旧し、被災した町が元のように活気のある町になることをお祈り申し上げます。

議会としての対応

財政の厳しい高萩市に復興のための予算を捻出するのはかなり厳しい。財政調整基金は、今たったの6,000円しかないそうである。

そこで、議会としては少しでも議会費を抑えるため、検討した結果、今年度の行政視察を中止し、政務調査費を自主返納することを決めた。行政視察を中止することで2,687,600円、政務調査費返納で1,360,000円、合計4,047,600円の議会費減となる。これを一般財源にまわし、一日でも早く元の生活に戻れるよう、復興に役立てもらう。

平成23年3月議会 一般質問

サッカーグラウンドの整備について

ウイザス高校サッカー部が新人戦の県大会で優勝した。高萩市には整備されたサッカーグラウンドがなく、高浜グランドやサンスポーツランドを使っている。草間市長との優勝報告の会談の中で「何か要望は?」との質問に対し、「人工芝のグラウンドが欲しい」と言っていたと市長は報告していたが、その後の検討は?

人工芝グラウンドは、天然芝と比べ、初期投資はかかるが、一回作ってしまえば、ほとんど整備は必要ない。頑張っている高校生たちのために、是非人工芝のグラウンドを整備してあげたい。

場所について ▶ 高浜グランド、または、サンスポーツランド高萩を人工芝にする。または、旧高萩工業高校。明治大学誘致がはっきりしないなら、もう諦めて、方向転換してはどうか? または、住宅団地の売れていない区画を新しく整備する。粗造成しかしていない場所、いつ売れるかわからないものをそのままにしているよりは、グラウンドを作り、そのまわりにコンビニとか、食事の出来る施設を誘致すれば、小さなサッカータウンみたいに出来る。高速のインターにも近いし、病院も近いし、もしかしたら、住宅も売れるようになるかもしれない。市長としては、場所的にどこを考えているのか?

費用について ▶ totoサッカーくじの補助金で、サッカーグラウンドの整備については、約5分4、助成を受



けることが出来る。芝整備と付属施設と照明で約1億6000万円、2面だと約2億5千万円。それを、totoの助成金で5分の4、宝くじ助成金で5分の1まかなうことができる。助成の申請をして、そんなにうまく許可されるかどうかはわからないが、うまくすればかなり負担が軽減される。

ウイザス高校のサッカー部は地域のスポーツ少年団の子どもたちに指導してくれている。県北地区には人工芝のサッカー場はないから、ウイザスだけでなく、市内外の小中学校、他の高校の子どもたちにも、広く活用すれば、使用料で管理運営費もまかなえるし、地域のスポーツ振興試合をやったり、高萩主催の大会を開いたりすれば大勢の人が高萩に訪れるになり、経済効果も期待できる。

高萩市の発展のため、思いがけないサッカーの盛り上がりに乗せて、いろいろ企画してみた方がいい。今年は地元の中学校からサッカーをやるために、ウイザスに入る子がいるらしい。高萩の子どもたちの将来も広がる。是非、人工芝グラウンド建設で高萩市の知名度アップ、経済力アップ、スポーツ振興を狙っていきたい。現実にウイザスから、全日本の選手として活躍しているから、高萩からそういった世界に通じる選手を送り出すためにも、是非、計画を進めていただきたい。これこそ、まさに萩っ子創出である。

市長答弁 ▶ 市が教育特区で設立した学校なので、積極的に関与して、是非サポートしていきたい。具体的な場所として、工業高校跡地については、県の所有地であること、明治大学の誘致がしてあり、もし来てくれることになったら、両方で使うことになるので支障がある。先ほどのほかにさくら宇宙公園も考えている。費用については、totoの日本スポーツ振興会の理事長等に既に会って、協議ができる状態にしている。あらゆる補助金等を活用しながら、一般財源の支出が可能な限り少なくなるような財源調達を調査し、スピード感を持って、この問題は考えて行きたいと思っている。

農業法人の設立、誘致について

質問 ▶ 高萩市の人ロ減少の原因である、雇用問題。企業誘致に努力しているが、なかなか実現しない。そこで、発想の転換をして、農業法人の誘致もしくは、設立を考えてはどうか？

牛久市では、県内自治体で初めて、今年2月2日に農業法人「うしくグリーンファーム」（社長は牛久市長）を設立した。耕作放棄地の解消と後継者育成が目的で、出資金は1000万円、市内の耕作放棄地を利用して農産物を生産するほか、将来的には観光農園やレストラン、農家民宿の経営なども計画している。就農希望者を4人社員に採用して、まずは学校給食用のナタネや小麦、その他の野菜を栽培する計画で、市長によると、「農業への新規参入は多額の資金が必要で、個人の新規参入は難しい。増え続ける耕作放棄地の受け皿となるとともに新規参入者を吸収して規模の拡大を図っていきたい」ということ。

高萩市内の、もと田んぼだったところ、畑だったところが耕作放棄地となっているところはどれくらいあるのか？また、農業従事者の人口とその推移は？

建設経済部長答弁 ▶ 耕作放棄地の面積は、180ヘクタールである。農家数は、5年前は867戸、現在は783戸で、84戸減少している。

質問 ▶ 他の市町村では、新規就農支援として、その地域に住む、若い就農希望者に研修費を助成したり、農園を貸し出したり、10年以上就農する方に毎月助成金を支給したりする制度がある。農家の高齢化、後継者不足を解消するために、農業法人を立ち上げて市が仲介役となって若い就農希望者を育てるということ。高萩市ではそのような制度はないが、今後は何か考えているか？農家の高齢化、後継者不足は高萩市でも抱えている問題。雇用の促進も含め、新しい視点で考えてみては？

たとえば、今、企業誘致をしている工業団地TK2に農業法人を設立するのは、いくら水を使うとはいえ畠には出来ないし、難しい。しかし、もしかして、水耕栽培の植物工場などなら可能性はあるかもしれない。発想の転換をするのも大事である。

北茨城市では飼料米作りを推奨して、助成金の上乗せをすることにした。このように、近隣市町村でも農業に改革をさせている。高萩市も今が変えどき、何らかの改革を起こしていくべきであると思う。

茨城県では、就農支援として、ニューファーマー育成研修助成事業という事業を行っている。これは、茨城県内への就農を希望する青年が技術習得のため農業者のもとで行う長期の研修を支援する事業。研修生（45歳以下）の長期研修（概ね1年以上）を受け入れる農業者等に対して助成している。

県内各地には農業法人がいくつもあり、そこでは、パートなら例えは、時給800円とかで仕事が出来て、各種社会保険制度もあります。正社員になれば、有給休暇もある。従来の、農家の人は、朝から晩まで畠に出て、代もなく自分が働き、老後の保障もないという「農業」が敬遠されている原因になることが、ずっと軽減されている。

野菜やお米など、人間の生命維持には欠かせない農産物の生産を担う農業は、決しておろそかにしてはいけない大切なこと。しかし、その大変さゆえに敬遠され、農地がどんどん減っている、輸入に頼ってきている日本の現状は、何とかしなければならない。地産地消、自給自足、そういうことを進めるためにも、農業形態の改革は重要。高萩市でも考えて行かなければならないことである。

市長答弁 ▶ 農業については、高萩市は財政が厳しい状況が続いている。市の単独というのは難しいが、国や県の補助事業を使いながら、必要となる農業の活性化についてやっていきたい。農業は専門外だが、経済学的にとらえてきた。農業の生産性を上げる。コストを下げる。安心・安全な食の体制をどういうふうに作っていくか。それが海外への輸出にもつながるという認識でいる。

議員提案

議員定数2名削減 議決！

3月4日、議員提案による「議員定数2名削減」の議案が出されました。また、同時に、今回、市民有権者の約6分の1に当たる、4357人の署名を添えて要望書が提出されました。

聞くところによると、集計後もさらに署名を提出される方があったそうです。

これを受け、私は、議案に対し賛成討論を行いました。

「私たち議会も、それぞれいろいろな考えを持っております。しかし、結果的に、議員提案という形で定数削減を考え、市民の方々も要望書という形で定数削減を考えています。ここで、立場は違えども、両者の意見が合致しているのだから、目指すところは、高萩市の財政のため、将来のため、この議員定数削減を機に、市民と議会が共に協力し合えるようになればと思っております。」

結果的に賛成多数で、2名削減が決定し、今年秋に行われる市会議員選挙においては定員16名ということで選挙がおこなわれることになります。私としては、平成19年からずっと主張してきたことが、どういう形であれ、実現されたことで市の行財政健全化に対し、少しでも議会としての改革につながったかなと感じております。

**吉川の
考察▶**

今回の地震で、宮城県、岩手県、福島県の市町村まではいかずとも、高萩市も非常に大きな被害を受けることになりました。と同時に、今まで気がつかなかった、気づいていたが改善していなかった防災上の問題点が露呈されることになったと思います。防災無線もその一つです。屋外放送設備がなかったため、避難指示、注意の呼びかけ、避難所の情報、ライフラインの案内等、市内全域又は一部の地域に通達しなければならないことが、思うように通達されなかつたと思います。そういう問題点をすべて洗い出し、この機会に一つひとつ見直していくなければなりません。

また、議会としては、3月に議員定数削減が決まったところですが、これによる議会費の縮小はあくまでも「公社等による厳しい高萩市の財政を立て直すため」であり、今回の「地震の復興のため」には、更なる議会費の見直しを進めていくべきであると考えております。一般質問において今回取り上げた農業改革について、あまり具体的な答弁をいただくことはできませんでしたが、放射能汚染による風評被害も厳しいことから、茨城県、高萩市の農業を守っていくためにも、農業形態の改革を視野に入れ、バックアップをしていくべきであると私は考えております。

がんばれ、日本！ がんばれ、茨城！ 踏ん張っていこうぞ、高萩！